



第 117 号

三教研に望むこと
調査委員会報告
授業力養成講座
研究大会の報告
教室の窓から
支部トピックス
学校自慢
教育随想





「あかつき」に馳せる夢

三河教育研究会副会長 酒井 敬

「あかつき」は、二〇一〇年五月にJAXA（宇宙航空研究開発機構）が打ち上げた日本初の金星探査機の愛称である。赤外線・紫外線などの各種カメラを搭載し、金星上空で吹くスーパーローテーションと呼ばれる毎秒一〇〇メートルの強風や、地表近くまで硫酸の雲で覆われた大気の動きを詳細に観測する。同年十二月七日、金星の周回軌道に投入する予定だったが、メインエンジンが故障して失敗してしまふ。それからちょうど五年。二〇一五年十二月七日、姿勢制御エンジンを使った再投入という世界初の挑戦を行い、みごとに金星の重力圏にとらえられ、金星の衛星となった。

「あかつき」は、最初の軌道投入失敗後、太陽を九周しながら金星との最接近を五年間も待つことになった。宇宙空間を飛ぶ探査機は、激しい温度差や強い放射線など過酷な環境にさらされる。「運用チーム」は、不必要な装置は電源を切りバッテリーの管理を緻密に行うなど、機器の劣化をなるべく抑える努力を重ねた。その間「軌道計算チーム」は、残されたわずかな燃料と姿勢制御用の小型エンジンのみで衛星軌道への投入を行うべく、昼夜を問わず数万通りもの軌道の計算にあたった。そして、最適な投入軌道を導き

出した。投入にあたって「工学チーム」は、あらゆる異常事態を想定し対策を用意して臨んだ。そして見事に四つの小型エンジンを計算通り噴射させ、金星の衛星軌道に乗せることができたのだった。

「チームあかつき」の、仲間と力を合わせてあきらめずに困難に立ち向かう姿勢は、日本の将来を担う子どもたちにも、ぜひ身に付けさせたい。昨今の教育現場で話題になっているアクティブ・ラーニング（課題の発見・解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習）は、まさにその一法だと言える。これは「新しい時代を生きる上で必要な資質・能力の育成とそのための学びの質や深まりの重視」といった視点から求められている。こうした中、三河の教育は、これまでも問題解決学習や協働的な学習など、三河の風土に根ざした創意あふれる教育を積極的に進めてきた。この三河教育の確かな流れを今後ともさらに推進し、目の前の子どもたちに、三河のそして日本の未来を託していきたい。

私が教師という職業を選んだのは、母の影響がとても大きかったと思います。「ほら、お母さんの手をよく見て、ごへいもちは、こうやってにぎるの、やってごらん」母は、掃除をする時も料理をする時も、いつも「母さんの手を見なさい」と、口ぐせのように言っていました。それから「何でも頭を使うの」「人間はね、心と心」も忘れられない母の教えです。私は、母から物事を教えることの基本を教わった気がします。

ある日、そんな母に祖父が声をかけていました。「お前は、『来年こそは、次こそは』とよく言うが、いったい、いくつになったら満足な野菜ができるんだ」と。母は困った顔をして下を向いていました。当時、中学生だった私は、いくつになっても前向きな母は立派だなあと思つたことを今でも覚えています。いつも真剣に考えて物事に取り組み、もつとよい工夫はないかと頭の中で考えて実行する母の姿は、教師になつてからずっとお手本にしてきたことであります。口だけでなく、やってみせて、やらせてみて、ほめてやる、そんな指導をめぐしてきました。若手教師を育てることが急がれる今、どう若手を育てようか考えることが多くあります。そこで、月に一度、職員会議



育つ教師が子どもを伸ばす

三河教育研究会副会長 竹本 正子

のあと、若手を集めて学び合うセミナーを立ち上げました。一時間程度を目やすに、自由参加を原則とした学び合いの会です。多くは、若い先生方が困っていることや学んでほしいことをテーマに実施しており、保護者対応のコツ、子どものほめ方・叱り方、電話のかけ方などさまざまです。若者がすすすすく伸びますようにと「竹の子セミナー」と名前をつけました。

「物語文の授業分析について、助言をいただけませんか」「セミナーで学んだことを実践したら子どもが変わりました」「保護者との懇談会が楽しみです」など、セミナーを始めて数か月たった頃から、先生方の週案や言動に前向きさと指導アイデアが見られるようになりました。子どもたちは、そんな先生方の伸びようとする姿を決して見逃さないと思っています。今の指導に満足せず、子どもたちの実態をよくつかみ、子どもたちの声を耳をすまして「今度こそは！次こそは！」と創意工夫する教師の姿勢そのものが、子どもたちのやる気を引き出し、伸びようと努力する子の育成につながると思います。



三教研に望むこと

時代の流れに舵取る大船

豊川市立金屋小学校

早川 実

三河教育研究会は昭和三十六年に発足しました。昭和三十三年に改訂された学習指導要領が小学校で完全実施された年です。この改訂から「試案」の表記が消え、「官報告示」として法的拘束力を持つこととされました。算数数学教育においては「系統学習」の時代の始まりです。ちなみに私は翌三十七年に小学校に入学しました。中学校に入学した昭和四十三年には、再び指導要領が改訂され、「数学教育の現代化」の時代となりました。中学校在学中には移行措置がなされ、授業で学習しない教科書の部分があったり、別の小冊子を使ったりしたことを覚えています。また、大学の講義では、高校で学習していない「行列」が当たり前のように出てきて、数学で苦しんだ思い出があります。

晴れて教員となり、小学校に赴任した昭和五十五年には、「ゆとりと充実」の指導要領が完全実施されていました。また、算数数学では、アメリカ発「問題解決学習」の時代がやってきました。その後、「ゆと

り教育」の傾向は色を濃くし、平成元年改訂の「個性化教育」や「新しい学力観」を経て、平成十年の改訂では「生きる力」が登場しました。学校週五日制への移行と相まって教育内容が厳選され、教科の時数が

三割削減されました。この頃、私は豊川市数学科指導員を命じられました。現場では「少人数指導」「算数数学的活動」「絶対評価」など、課題が山積していて、特に評価の問題では「クリアしてB」なのかどうか、再三議論をし、研修を繰り返しました。そして、ゆとり教育の反動からか、国中で学力低下論争の狼煙が上がりに、物議を醸しました。そんな中、指導要領は異例の早さで平成十五年の一部改訂、「歯止め規定」は撤廃され、指導要領の「最低基準性」が明確になりました。さらに五年後の改訂で、「確かな学力を基盤とした生きる力の育成」に着陸、現在に至っています。

三教研の五十四年の歴史は、指導要領の改訂に伴う時代の流れの渦の中で、三河の教育研究の舵を取ってきました。時代からの要請による指導要領の改訂は避けられませんが、私たちは三教研という「大船」に乗って、より質の高い教育という目標を見失うことなく、教育実践に取り組んでいかなければなりません。

教師は授業で勝負

刈谷市立富士松南小学校

近藤 恵理子

今年度、本校は市教育委員会指定の研究発表会を開催させていただきました。学区の中を旧東海道が横断している歴史ある地域です。地域教材を生かして子どもたちに学ぶ喜びを味わわせようと考えての研究でした。

語り尽くされた言葉ではありませんが、やはり教師は授業が勝負。そこで、研究発表会を見据えて平成二十五年度より今年度に至るまでに三人の若手から中堅の教員を授業力養成講座に参加させていただきました。十分に練り上げられた授業を参観させていただき、他地域の先生方の考え方に触れることができました。同時に、その道に卓越した講師の皆さんの話を聞くことができ、参加した教員は大いに刺激を受けて戻ってきました。

三河教育研究会は、発足から今年度で五十四年を越えたとのこと。そして、このような研究会はここ三河地区独自のものであるとのこと。よりよい教育をめざしてきた先輩諸氏の努力に思いを馳せずにはいられません。

本会の取り組みが、若い先生方の授業改善意欲をかき立て、各地域の教育を牽引していく力の源となることを望みます。今後とも情報を共有し、相互に刺激し合う場として三教研のさらなる充実を期待しています。

子どもたちの笑顔のために

高浜市立吉浜小学校

江坂 雅史

「私たちは子どもたちにとって、ドリムサポーターだー」日本ペップトーク普及協会の会長、岩崎先生の言葉が、今でも鮮明に耳に残っています。

保健体育部会の夏季研修会では、各地区の先生方の実践と岩崎先生のペップトークについての講演を聴きました。ペップトークとは選手や子どもたちを励ますために監督や先生が本番前に使う「激励のショートスピーチ」のことです。私たち教員は、学校行事や部活の試合など様々な場面で、子どもたちに激励の声をかける機会があります。緊張している子どもたちを前に、どんな言葉がけをしたらよいか、成功に導くために、より効果的な言葉がけにはどんなものがあるかを学ぶことができました。子どもたちの笑顔のために、学校現場ですぐにでも実践していきたいと思える内容でした。

また、夏季研修会だけでなく、三河教育研究会の委員会でも、各校の実践事例をたくさん紹介していただきました。どの実践も、今後の授業に役立てそうなものばかりでした。

このような貴重な機会を与えてくださった三河教育研究会に感謝を申し上げますと共に、今後ますます充実されることを期待しています。

平成二十七・二十八年度 実践事例集

『子どもの主体的な学びを支える教育』
仲間とともに、主体的に問題を解決する子の育成

調査委員会

三河教育研究会では、調査委員会を中心にして、諸事業の推進や諸活動の充実を図るために主題を設定し、二年間の調査・研究を進めています。平成二十五年度から二十六年度にかけては、「『子どもを中心に据えた教育』」を主題とし、未来を創造する子の育成」を主題とし、実践事例集にまとめてきました。

平成二十七年度には新たなテーマを設定し、平成二十八年度までの二年間を通じた実践の成果と課題を学校現場へ還元していきたいと考えています。

そこで、教育の今日的な課題や三河各地の学校現場の実情から、主題及び副題を検討していくため、調査を行いました。ここでは、各支部から次のようなキーワードが寄せられました。

- 【各地区から寄せられたキーワード】
- ・教科としての道徳教育
- ・地域とともに進める「共育」
- ・「確かな学力」の育成
- ・地域連携を軸とした防災・安全教育
- ・学校の教育力の向上

- ・若手・中堅教員の資質向上
- ・ICTの活用
- ・アクティブ・ラーニング

また、各支部の声の中には、次のような「育てたい子どもの姿」が見られます。

- 【育てたい子どもの姿】
- ・主体的に学ぶ子
- ・心豊かに生きる子
- ・自分自身のよさを感じられる子
- ・自分で判断できる子
- ・ともに学び合う子

私たちは、「三河の風土に根差し、子どもを中心に据えた教育を実践する」「子どもの生活を変える学びを創造する」「三河教育の理念として掲げ、半世紀にわたり、子どもの「生きる力」を育んできました。この姿勢は、今後も変わることはありません。

また、次期学習指導要領の改訂の視点の一つとして、「学ぶことと社会とのつ

ながりを意識した教育」を通して、「自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に探究し、学びの成果等を実現し、更に実践に生かしているようにする」ことが挙げられています。しかしながらこれは私たちにあって、決して目新しいものではありません。私たちは、子どもたちが自ら進んで考え、判断する力を育んでいくために、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習をさらに推し進め、これからの教育の在り方を三河の教育が示していくといった自負をもって研究を推進していきたいと思

います。

そこで、本年度は、特に体験的学習、問題解決的学習等を通して、「問題意識を高める」「確かな追究を進める」「自己の学びを確かめる」という三つの追究過程における授業展開に重点を置き、実践を財産として共有していきたいと考え、主題を「子どもの主体的な学びを支える教育」仲間とともに、主体的に問題を解決する子の育成」としました。

今後は、次のような日程で、編集を進めていきたいと考え、計画をしています。

- 【平成二十八年度編集日程】
- 四月
- ・主題の確認
- ・各地区代表実践校の確認
- ・執筆方法の提示
- 十月

- ・調査結果集約
- ・巻頭言執筆決定
- 十二月
- ・原稿整理
- 一月
- ・原稿渡し（印刷・製本へ）
- ・実践事例集完成
- 二月
- ・調査結果報告・実践事例集配付

本事例集には、三河の各支部における、小学校・中学校の実践事例を掲載していきます。

「子どもの主体的な学びを支える教育」は、どの支部においてもこれまで多くの実践を重ねてきています。今回の実践事例集は、これまで蓄積してきた実践の成果と課題をもとに、「問題把握」「個々の追究」「振り返り」といった追究過程のそれぞれの場面での子どもの主体的な学びを支える教師支援を明らかにすることで、「問題意識を高める」「確かな追究を進める」「自己の学びを振り返る」子どもの様子をより具体的な姿を通して、まとめていきたいと考えます。

新たな時代を見据える際の一つの指針として、また、私たち教員の資質、専門性のさらなる向上へと結びつく価値ある実践事例集にしたいと考えます。

会員の皆様には、今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

授業力養成講座

中堅教員のミドルリーダーとしての資質向上をめざして

授業力養成講座Ⅰ

【東三河】

期日 八月二十六日（水）

会場 豊川市役所音羽庁舎

講師 岡崎市立矢作北小学校長 石井 洋 先生

「教科時代における道徳の授業」

岡崎市立男川小学校長 蜂須賀 渉 先生

「子どもの思考力・判断力・表現力を高める教師の出」

受講者 六十六名

【西三河】

期日 八月二十五日（火）

会場 碧南市文化会館

講師 安城市立安城中小学校長 石川 良一 先生

「国語の授業力をどう高めるか」

岡崎市立大樹寺小学校長 田中 俊二 先生

「魅力ある社会科の学びづくり」

幸田町立豊坂小学校長 近藤 正義 先生

「考える・話し合う・議論する」

受講者 八十六名

本年度も魅力的な講師の先生方をお招きし、講義形式による実践的な授業づくりを中心に学びました。

講師の先生からは、子どもが主体的に考える、かわり合う授業づくりの工夫や教師の発問の仕方、意欲を高める教材提示の方法、子どもが学び合うための環境づくりなどについてご指導いただきました。また、実際に授業記録を使っての授業分析や、具体的な教材を用いた授業構想づくり、授業場面での具体的な発問の仕方や教師支援等を学ぶ場面も

あり、受講者が自ら考えながら研修を進めることができました。講座によってワークシヨップ方式やグループ討議をしながら研修するなど、実際の授業に役立つ実践的な学びを進めることができ、大変有意義な時間となりました。



協議会の様子

授業力をどう高めるか

豊田・畷部小 中田 英子

講座に参加させていただきました。学ぶ中で「自分の刺激を受けました。学ぶ中で「いい」という授業の目標が見えてきました。こんな気持ちで芽生えるような講義や授業参観、協議会が、実際に体感できたのがうれしく、また、新鮮な気持ちにもなりました。初任者の時は、毎日が学びの連続でしたが、今ではそんな機会は減り、学ぶ姿勢が薄れてきているようにも感じていました。今回このようなチャンスをいただき、真剣に学べたのは、私にとってとても有意義なことでした。授業力を高めるため、これからも日々努力し、教師として向上していきたいです。

授業力養成講座は、ミドルリーダーの育成のため、各校の中堅教員を対象に、授業の在り方や参観の仕方、協議会の進め方などを研修できる機会として、平成二十二年より開催しています。講座は、講師を招聘し講義形式で進める講座Ⅰと、実際の授業を参観し授業協議会を通して授業の在り方を学ぶ講座Ⅱを行いました。

授業力養成講座Ⅱ

【東三河】

期日 十一月二十七日（金）

会場 豊橋市立羽根井小学校

受講者 山岡 亜矢 先生 四年 道徳

ファシリテーター・アドバイザー

岡崎市立矢作北小学校長 石井 洋 先生

受講者 五十名

【西三河】

期日 十二月四日（金）

会場 豊橋市立旭小学校

受講者 小田 直幸 先生 三年 算数

ファシリテーター・アドバイザー

岡崎市立男川小学校長 蜂須賀 渉 先生

受講者 三十四名

【東三河】

期日 十二月二日（水）

会場 碧南市立新川小学校

受講者 鈴木 貴子 先生 四年 国語

岩脇 幸太 先生 三年 社会

ファシリテーター・アドバイザー

安城市立安城中小学校長 石川 良一 先生

岡崎市立大樹寺小学校長 田中 俊二 先生

豊橋市立北部中学校長 伊藤 智祥 先生

受講者 五十七名

【西三河】

期日 十二月二日（水）

会場 碧南市立新川中学校

受講者 岡田 将志 先生 二年 道徳

ファシリテーター・アドバイザー

幸田町立豊坂小学校長 近藤 正義 先生

受講者 二十九名

講座Ⅱでは、東三河・西三河あわせて六名の先生方の授業を参観し、授業協議会を通して、授業の在り方を研修しました。講座Ⅰでの講義をもとに、子ども一人一人を大切にすることを熱意あふれる授業が展開され、その後の協議会では、教師の発問の仕方や板書方法などについて意見交換をしたり、グループで話し合いその内容を発表したりしました。また、ファ

シリテーター・アドバイザーの先生方からは、授業分析の仕方や教師の具体的なはたらきかけなどのご指導をいただきました。

受講された先生方が、各学校及び地区における授業力向上の推進役となり、一層活躍されることを願っています。

最後になりましたが、ご指導いただきました講師の先生方、また、授業を公開してくださった豊橋市立羽根井小学校・旭小学校、碧南市立新川小学校・新川中学校の皆様にご心より感謝申し上げます。

力量アップにつながる授業力講座Ⅱ

田原・清田小 立花 崇子

道徳、算数の両方の講座に参加しました。道徳では、教科化を見据えて、考える・議論する「テーマ発問」の授業でした。学習テーマに沿った心情軸を板書し、全員がネームプレートで自分の考えている心情を示すことで、子どもたちが活発な意見交換を行っていました。子どもたちの思考を深める発問や板書の仕方など勉強になりました。算数では、分数のたし算の授業を参観しました。子どもたちがしっかりとした説明を聞き、意味理解を深めるためにも、絵や図を使って考えさせ、説明させることの大切さを改めて実感しました。また、自力解決やグループ活動での教師の出の大切さを学びました。早速自分の授業に取り入れ、授業力を高めたいと思います。



活発に意見交換をする受講者

部会・各種委員会

研究大会の報告

社 会

社会に参画していこうとする子どもの育成をめざし、仲間とかわりながら問題の解決を図る社会科の授業〈三年次〉

平成二十七年年度
愛知県社会科教育研究大会西尾大会
期 日 十月二十七日(火)
会 場 公開授業・全体会・分科会
公開授業 西尾市立鶴城中学校
西尾市立八ツ面小学校
西尾市立鶴城小学校
参加者 四百六十三名

愛知県社会科教育研究大会は、三河と尾張で一年おきに開催されています。本年度は、西尾市を会場として開催しました。八ツ面小学校と鶴城小学校では、三年生から六年生までの各学年一学級の八授業、鶴城中学校では、一年生から三年までの八授業を公開していただきました。授業では、地域教材をもとに、そこに潜んでいる問題を取り上げた単元が構想されました。問題を見つけた子どもが、学級の仲間や地域社会に生きる人とかかわり合いを通して学びを深めていく姿が随所に見られました。研究主題を受けて、確かな実践が積み上げられていくことを実感しました。



提案する中熊先生

公開授業の後は、鶴城中学校を会場として、小学校が六つ、中学校が三つにわかれて分科会が行われました。各地区から十九の実践が提案され、熱心に協議が展開されました。



分科会の様子

社会部会では、四年間の計画で研究主題を設定しています。第十四期の研究主題の三年次にあたる今年度は、研究主題を踏まえた確かな実践から見えてきた成果や課題が各分科会で報告されました。「社会参画」「仲間とのかかわり」などをキーワードとして、活発な協議が行われました。

今大会でお世話になりました西尾地区社会部の先生方をはじめ、関係諸機関、関係者の方々に深く感謝申し上げます。

提案者として参加して

知立・知立南小 中熊 洋介

愛社研大会で実践を提案させていただく機会を通して、子どもとも自分自身とも深く向き合うことができました。また、「なぜ、社会科を苦手とするのか」「どのようにしたら社会参画の素地ができるのか」と考えていくことで、教材研究にも自然と力が入りました。そして、実践における子どもの姿や提案に対する先生方のご意見から多くのことを学びました。

これからも、「子どもと共に学ぶ」姿勢を忘れずに、向上心をもって授業づくりに努めていきたいと思っております。

技術・家庭（小学校家庭科）

未来を創り出す豊かな心と
確かな実践力を育む家庭科教育

平成二十七年年度
愛知県家庭科教育研究会稲沢大会
期 日 十一月十一日(水)
会 場 稲沢市勤労福祉会館
参加者 二百六十一名
研究発表

○稲沢地区

未来社会を生きる自分を自覚し、主体的に生活をよりよくしようとする子の育成

家族への思いを高め、よりよい生活を創り出す子の育成

研究協議

助言者 愛知県教育委員会

義務教育課 指導主事

講演 細川 圭子 先生

講演

「実践力を育てる

家庭科の学習指導」

講師 静岡大学准教授

小清水貴子 先生

愛知県家庭科教育研究会稲沢大会が開催され、多くの先生方にご参加いただき、大変有意義な会となりました。

稲沢地区の研究発表では、ESDを取り入れた「地球人ポイント」を切り口とし、「学び合いの場」「体得する場」を題

材を通して設定していくことで、多面的・総合的な視点から生活を探求していく子どもの姿が報告されました。

丹葉地区の発表では、「教材のつながり」「実践へのつながり」「人のつながり」と三つのつながりを大切に、授業を行うことで、持続可能な社会づくりを担う子どもの姿が報告されました。

講師の小清水先生からは、被服実習において、作業の仕方を教えるのではなく、「作業の意図」、「手順の意味」を学んでいけるように指導する大切さについて具体例をもとにご講演いただきました。



小清水先生のご講演

愛家研稲沢大会に参加して

豊川・小坂井東小 松原 麻世

家庭科教育にESDの視点を取り入れることで、子どもたちが多面的な見方をし、自ら選択する力が育つことを学びました。生活スタイルの多様化が進む現代に、身につけたい力であると感じます。

講演会では、アクティブラーニングを用いた被服実習の学習の指導について教えていただき、子どもへの接し方を見直すきっかけをいただきました。家庭科の学習において、ただ活動させるだけではなく、意図と意味を伝えていきたいです。

英語(外国語活動)

心豊かなコミュニケーションをめざして

平成二十七年愛知県英語教育研究大会

期日 十月二十七日(火)

会場 みよし市立南中学校

みよし市立南部小学校

参加者 三百七名

公開授業

南中学校	二年	廣川 幸平 先生
南中学校	三年	村木 繭名 先生
南部小学校	五年	林 大吾 先生
南部小学校	六年	東宮 美穂 先生
研究発表		
刈谷市立朝日中学校	村松 宏樹 先生	
豊川市立代田小学校	鈴木 啓仁 先生	
西尾市立福地中学校	神谷 祐輔 先生	
蒲郡市立中部中学校	本間 美樹 先生	

本年度の愛知県英語教育研究大会が、みよし市立南中学校・南部小学校において、盛大に開催されました。

小学校では五年生と六年生の各一学級で授業が公開されました。五年生は、複数のゲームで構成された楽しい授業、六年生は、入国審査の場面をシミュレートする授業が行われました。中学校では二年生と三年生で各一学級授業が公開されました。二年生は、日本文化をA・L・Tに紹介する授業、三年生は、ジグソーリーディングを取り入れた読み取りの授業が行われました。参観者からは、「子どもが

生き生きと英語を使っている」「学校へ戻ってから、自分もやってみたい」という声が多く聞かれました。授業後の協議会では、授業者から、本時で工夫したポイントについて語られました。

研究発表の



質問に答える廣川先生

分科会も大盛況で、それぞれの先生方の提案に対し、鋭い質問や意見が飛び交いました。特に小学校では、徐々に定着しつつある外国語活動や、今話題になっている小中連携についての議論が交わされました。

最後に、今大会でお世話になりました授業者・提案者・司会者の先生方をはじめ、南中・南部小学校の先生方、そしてみよし市や三河地区の英語(外国語活動)部の先生方に、心より感謝申し上げます。

愛知県英語教育研究大会に参加して

みよし・南中 村木 繭名

生徒が意欲的に自分の思いを英語で表現する姿をめざして、特にリーディング活動を中心に授業改善に取り組んできました。様々な手だてを取り入れていくと、生徒の目が輝いていくのが分かりました。今後もこの取り組みを継続することで、さらなる向上をめざしていきたいと思えます。

道徳

豊かな心をもち 共にによりよく生きようとする力を育てる道徳教育

第五十三回愛知県道徳教育研究大会名古屋大会

期日 十一月二十五日(水)

会場 名古屋市教育センター

参加者 五百三十一名

研究発表 尾張地区・三河地区

名古屋地区による発表

記念講演

「『特別の教科 道徳』と未来社会

―道徳科の行方について考える―

講師 金沢工業大学教授

白木みどり 先生

第五十三回愛知県道徳教育研究大会名古屋大会が名古屋市教育センターを会場として開催されました。県内各地区から五百三十一名の参加者を得て、「心輝く子どもを育てる道徳教育」をテーマに実施されました。

研究発表では、尾張地区・三河地区・名古屋地区の実践が発表されました。道徳の授業を、体験活動などを通した「出会い」や「感動」を軸にして、さらに他の教科・領域との関連を図りながら組み立てた実践や、道徳の授業に焦点を当て、子ども自身が自らの内面にある感じ方や考え方に気づく機会を増やし、道徳的実践力を高めようとした実践、ねらいとする道徳的価値について事前に家庭で話し

合い、道徳の時間に生かす実践など、どの発表も参加者が今後の道徳指導に生かしていこうという思いを強くするものでした。

記念講演は、金沢工業大学の白木みどり先生を講師にお招きしました。子どもが未来社会を生きるためにどのようなことを「特別の教科 道徳」でめざすのかという視点でお話いただきました。道徳的価値を含む思考課題についての話し合いを通して自己の判断の基準となる道徳的価値を形成しつつ道徳性を高めていくアクティブ・モラル・ラーニングを提案されました。



白木先生のご講演

道徳の時間を充実させるために

西尾・平坂小 野村 佳代

各地区の発表をお聞きし、他の教科や領域と関連した授業づくり・地域と連携して、子どもの道徳的実践力を高めること・家庭と連携して授業の話し合いをより活発にすることなど、道徳の授業を充実させるために大切なことを学びました。そして、改めて子どもたちが豊かな心をもち、共にによりよく生きようとする力を育てることの大切さを感じました。また、記念講演では、白木先生のお話を聞き、「特別の教科 道徳」の実施に向けて、子どもが話し合いを通して、道徳的価値を形成することのできる授業づくりが大切だと感じました。

学習情報

確かな学力向上をめざして
〜学び合いにICTを活用した
授業の構築〜
授業の構築

第四十七回

愛知県学校視聴覚教育研究大会

期 日 十一月十一日(水)

会 場 西尾市立吉良中学校

参加者 三百八名

記念講演会「情報化がひらく新しい授業」

講師 NHK青少年・教育番組制作部
大本 秀一 氏

ICTを活用することで、「思考の可視化」「瞬時の共有化」「試行の繰り返し」が可能になり、その成果が吉良中学校の授業における生徒の姿から感じられる研究大会となりました。各実践では、タブレット端末、デジタル黒板、大型ディスプレイなどが活用されていました。一つ一つの実践において、ICTが、目的ではなく、それぞれの教科の目標を達成するための手段として活用されている様子を見ることができました。また、講演会では、NHK教育番組制作部の大本秀一氏からNHKの教育コンテンツや動画を活用した授業づくりについて紹介をしていただきました。



講演をされる大本氏

愛知県学校視聴覚教育研究大会に参加して

刈谷・依佐美中 前田 健太

美術科「飾ってみたい!『銅板レリーフ』の授業を参観しました。銅板に立体感を出すための制作技法を大型ディスプレイに映し出すことで、生徒全員がその技法を見て学ぶことができていました。また、その技法を生かして制作している生徒の様子をタブレット端末で撮影し、すぐに大型ディスプレイに映し出すことで、その生徒の活動のよさが瞬時に学級全体に伝わっていました。「なるほど」と大型ディスプレイを見つめ、仲間の制作のよさを自分の制作にすぐに生かしている生徒の姿が印象的でした。

理科「表面さらさら加工『水溶液とイオン』」の授業では、生徒が実験の様子をタブレット端末で撮影する姿が見られました。考察の場面では、その画像を画面に映して話し合っていました。時間が経過すると変化していく実験の様子を残すことができるのは考察において効果的だと思いました。また、タブレット端末で実験結果を撮影し、その画像を大型ディスプレイとそれぞれのグループのタブレット端末に転送して結果について報告する姿が見られました。仲間の発表に耳を傾け、転送された画像を指差しながら確認をする生徒の姿が見られました。

これら生徒の姿から、吉良中学校が掲げる「ICT活用の利点」である「瞬時の共有化」「映像による焦点化」「試行の繰り返し」の有効性を実感することができました。

統計教育

未来に生きる力を育てる統計教育

平成二十七年年度

愛知県統計教育研究協議会

研究発表会・講演会

期 日 十一月二十五日(水)

会 場 愛知県図書館

参加者 七十名

研究発表

(提案者)

豊田市立青木小学校 近藤 宏城 先生

江南市立知野東小学校 今野 葉摘 先生

名古屋市新郊中学校 長谷川 航 先生

指導講評・講演

「次期教育課程を見据えた

統計教育の展開について」

講師 愛知教育大学准教授

青山 和裕 先生

愛知県統計教育研究協議会研究発表会・講演会が、愛知県図書館で開催されました。本年度の開催は、三河地区が担当し、県内各地より七十名の参加者を得て有意義な会となりました。

研究発表会では、尾張地区からは、家庭科の実践、名古屋地区からは、理科の実践、そして、三河地区からは、算数と総合的な学習をかかわらせながら、自らの成長に目を向け、よりよい生活をして

いこうとする子どもをめざした実践が報告されました。身近な事象をデータ化し、生き生きと学ぶ子どもの姿が伝わってくる発表でした。こうした実践は、あふれる情報から必要な情報を選び、活用する子どもの姿をめざしたものです。統計教育を通して、生きる力を高めるために、学習内容をいかに具体化していくかといった提案となりました。

続いて、愛知教育大学の青山和裕先生にご講演をいただきました。青山先生からは、次期学習指導要領の改訂に向け、各学校段階を通じて、実社会とのかかわりを意識した算数的活動・数学的活動の充実等を図っていくことが求められることなどについて、ご講演いただきました。



講演をされる青山先生

研究発表会・講演会に参加して

豊田・朝日丘中 堀内 敦

ビッグデータ時代の到来により、統計教育の目的が「調べる」ことから「どうとらえて活用するか」に変化してきているのだと感じました。実践紹介の中にもあった「無関係そうでも遊び心を入れると思わぬ発見がある」という視点も大変興味深かったです。子どもを取りまく環境の変化に、我々も対応していく必要性を感じました。

へき地教育

ふるさとで心豊かに学び、
新しい時代を切り拓く子どもの育成

第五十三回愛知県へき地教育研究大会
期 日 十月二十日(火)

会 場 新城市立作手小学校南校舎

参加者 百二十七名

公開授業 六学級

全体会

○基調報告「第八次研究推進計画」

県へき研研究部

○研究推進状況報告(二年次)

・東栄町立東栄中学校

・新城市立黄柳川小学校

作手小学校南校舎では、全学級の公開授業がありました。どの授業も少人数の特性を生かしたものでしたが、特筆すべきは、数キロメートルを隔て隣接する同小北校舎の子どもたちとの、ICT機器利用を含む「交流授業」の提案があったことです。また、子どもたちによるマーチング演奏では、統合前の各校の体操服姿と、新しい作手小の体操服姿が共にあることで、より「調和」を感じ、素敵なハートと相まって感動を覚えました。

本年度は第八次研究推進五年計画の二年次にあたり、基調報告の内容は、研究構想の確認とともに、研究充実期の諸課題についても及びました。今次研究で

着目すべきキーワードは「切り拓く」です。ふるさとを教育資源とした学びを一層発展させることにより、大きく変動する社会状況においても、子どもたちが自身自身の人生を「切り拓く」力、そして、わが国の未来を「切り拓く」力を育んでいける確かな実践に期待が高まっています。

委嘱校の研究推進状況については、学校・学級経営の領域で東栄中学校から、また、学習指導の領域で黄柳川小学校から報告があり、特色ある教育活動への活発な質疑応答がなされるなど、充実の大会となりました。

作手小南校舎の授業にふれて

北設・田口小 村松 敦雄

六年生の社会科を参観しました。双方向通信アプリを使った、北校舎の子どもたちとの交流授業でした。日米修好通商条約の条文をもとにして、条約を結んだことについて活発に話し合っていました。北校舎の子の考えを聞いて、自分の考えを深めようとする姿を見ることができました。ふるさとの仲間と共に高め合う姿がありました。



南北両校舎の6年教室をつないだ授業

教室の窓から

学校・家庭・地域との連携を通して、
好き・好き・好きな子どもの育成
「三年生「大すき！幸田」」

幸田町立中央小学校

森 佐登美

③「去年のナス農家さんは 十三人」

④「幸田では ナスが有名 たくさんとれる」

⑤「問題は 早めにかい決 ナスのため」

三年生の子どもたちは、総合的な学習で、幸田の特産品のナスについて学んできました。そのまとめとして、お世話になった方を招いて「ナス感しゃまつり」を開くことになり、プレゼントの用意・ナスクイズ・ナスカルタなど、会の内容をみんなで相談して決めました。冒頭は、子どもたちが考えたカルタの読み句です。本校では、「人が好き、自分が好き、自分が住んでいる町が好き」などの育成」をテーマとして研究に取り組んでいます。地域のリソース(人・もの・こと)を活用したサービスマーケティングを通して、子どもたちの自己効力感を育てています。三年生の子どもたちは、初めて出会う総合的な学習において、地域にみえるナス農家の志賀さんのご指導を受けて、自分たちもナスを育てながら、「大すき！幸田 くぼくらナスちようさたい」の学習を進めてきました。ナスを植えて三週間ほどたつと、つぼ



ナスの育て方を教えてもらう

みがついたり、花が咲いたり、葉が虫に食い荒らされたりして、うれしいことや心配なことがいくつも起こってききました。そんなとき、志賀さんが子どもたちのナス畑を見に来てくださり、世話の仕方やナスの収穫時期について、子どもたちのナスを見ながら指導してくださいました。虫に食われた葉をどうしていいか迷っていたA子は、志賀さんに、取ってもよい葉と残した方がよい葉を教えてくださいながら、ナスが大きく育つように世話をしました。

また、幸田のナスについても学習を進め、子どもたちの疑問をもとに、さまざまな人に出会って調査活動を行いました。給食センターの栄養教諭に給食で使うナスについて、ナスを売る店の方には、売り場の見学や幸田のナス栽培の様子やナス農家の仕事ぶりについて教えてもらいました。

これらの学習の成果が子どもたちで作った「ナスカルタ」に表れました。また、A子はふり返りに「いろいろな人に教えてもらって幸田のナスのことが分かったから、幸田のナスをもっとじまんしたくなりました」と書き、めざす子どもにも近づけることができているようです。

今後も、地域に愛され、地域の中で育つ子どもをめざして、実践を重ねていきたいと思っています。

安城支部

第二十一回安城市小中学校音楽会

「うたごえシンフォニー」の開催

安城市立全小中学校

十月二十四日(土)、安城市民会館サールピアホールにおいて、第二十一回安城市小中学校音楽会「うたごえシンフォニー」を開催しました。

五年に一度の音楽会は、安城市の子どもたちが、日ごろの学習で身に付けた音楽表現を多くの方々に伝える貴重な場です。また、教師が子どもたちの内面にある感性や創造性を引き出し、相互に高め合う絶好の機会ととらえています。

今回のメインテーマは「美しいわたしたちの世界」です。美しい世界をこれからも大切に、次の世代に受け継いでいきたいという願いが込められています。

総勢一五七名。市内二十九校を四ブロックに分け、ブロック毎にテーマを設定し、ステージを構成しました。



第21回安城市小中学校音楽会の様子

ブロックテーマ

『花』 咲かせよう 夢のつぼみを

『鳥』 空高く はばたいて

『風』 自分を信じて

『月』 やさしい光 輝く未来へ

どのブロックもそれぞれの美しさを合唱だけでなく、曲に合わせた振り付けやダンス、吹奏楽や琴、ギターなどの演奏を取り入れて、豊かに表現しました。

また、今年度は明治用水の礎を築いた郷土安城の偉人、都築弥厚生誕二百五十年の年でもあります。オーブニング行事では、都築弥厚の偉業をたたえて、美しく、豊かな安城をいつまでも守っていききたいという思いを小中学生が歌と劇で表現しました。

子どもたちの歌声が多くの方に感動を与えたことは、言うまでもありません。さらに、この音楽会は、学校の枠を越えた活動であり、私たち教師にとって、具体的な指導方法を直接先輩の教師に学ぶことができる貴重な場でもあります。私たちの指導力の向上に確実につながる教育活動であると、肌で感じることでできました。

(文責・安祥中・早川 慎)

支部 トピックス



みよし支部

「笑顔あふれる夢の学校」を

めざした小中、小小の連携

三好中学校および校区三小学校

古くからの農家、新興住宅地、集合住宅が混在する三好中学校区。児童生徒の家庭環境も様々です。子どもたちは素直な反面、学習意欲の低下や不登校、登校渋りの増加等の諸問題も見られます。

三好中学校および校区の中部、天王、三吉の三小学校は、平成二十六年年度より文部科学省から「魅力ある学校づくり調査研究事業」の指定を受けました。小中学校が一つの学校区の仲間として互いにかかわり合

い、学び合いながら認め合うことで、やりがいを感じ笑顔があふれる学校をつくることをめざし取り組んでいます。

【学び合いでつながる】

四校の教員が話し合い、学習スタンダードやめざす子ども像「主体的に学ぶ姿」を四校共通のものにしました。また四校の授業の様子を互いに見合い、子どもたちの姿をもとに協議しました。三小中学校の同学年担任と中学校の教員による合同学年部会も行いました。

【児童会・生徒会活動や小中交流・異学年交流を通して自己有用感を高める】

小中の交流では中学生が小学生に部活動の指導をしたり、中学生による中学校説明会をしたりしました。

【あいさつを中心とした仲間との居場所づくりと授業規律の確立】

規律と心地よさの両立をめざした取り組みです。地域全体のあいさつの活性化のため「子どもと大人の学校会議」を経て小中合同のあいさつ運動も行いました。九年間を見通した取り組みや、小小中の連携により、進級・進学した子どもたちが戸惑うことなく学校生活を送り、授業等で成果が上がっています。中学校生活を楽しくする児童も増えました。

どの子も笑顔いっぱい学校生活を送ることができるよう、今後も、より強く、より広がりのある児童生徒同士、教職員同士の絆づくりをめざします。

(文責・天王小・奥村真由美)



中学生から器楽演奏の指導を受ける小学校金管バンド部員

動物と共に育つ

豊田市立佐切小学校

平成十七年の市町村合併により豊田市立となった本校は、紅葉の景勝地としても知られる香嵐溪のある巴川沿いの静かな中山間地に位置します。校歌では「標高二百」と謳っていますが、昭和五十六年に移築された現在の校舎は、それよりさらに三十メートル高い場所に建てています。全校児童十九名の完全複式学級、豊田市で一番小さな本校の自慢は、今年で三十四年目になる動物飼育活動を柱にした命と心の教育です。



毎朝、登校するとすぐに小屋に集まり、掃除等に汗を流します

飼育小屋の掃除、餌や水の補給など、佐切っ子の一日は朝の飼育活動から始まります。世話をする動物は前年度末の児童集会の話し合いで決めます。一・二年生は五羽のウサギと二匹のコイ、三・四年生は六羽の烏骨鶏、五・六年生は一頭のヤギが今年の分担です。動物たちと共に過ごし、彼らの生と死、誕生を通じた学びは、命の尊さや思いやりの心を育みます。子どもたちは、素直な気持ちで「ありがと」「ごめんね」が言え、身近な人たちのキラリと光った善行を称揚する「キラリカード」も進んで作っています。昨年度からは、動物たちの排泄物等から堆肥を作り地域にも配っています。その堆肥で育てた野菜を、お返しにと言って学校に届けてくださる方もみえますし、動物たちの餌を心配してくださる方もみえ、動物を介した地域とのつながりが広がっています。

三十四年間、共に歩んでくださったという動物アドバイザーさんや、獣医師さん、二十五年前に本校を舞台にした『ヤギのリリのおくりもの』を出版された児童文学作家の岩崎京子先生など、動物飼育が縁となった方々との交流も、子どもたちの大切な学び・育ちの場となっています。

(文責・伊藤 直明)

学校自慢



光り輝く

白亜の学び舎のある学校

碧南市立南中学校

昭和三十年に開校され、創立六十周年を迎えた本校の校歌です。

♪衣が浦の朝あけは
白亜の窓に照り映える
ここ学び舎に 集いよる
若い仲間よ わが友よ
ああ真実の道 一筋に
希望に燃えて いざ競え
南 南中学 わが母校♪

生徒たちに地域を大切にしてほしいという願いが込められています。校舎内には、三つの多目的教室を設置しています。特別支援学級の生徒が作業学習で行っている紙すきをする教室、本校の歴史と伝統を感じとることができ、そして、ICTを取り入れた授業ができる教室です。普通教室は、今までの教室よりも広くなります。ゆとりのある空間で、伸び伸びと学習することができます。屋上には三百平方メートルの屋上緑化を施します。屋上からの熱の進入を防ぎ、教室の室温上昇を抑制します。屋上緑化のある校舎の例はまだ少なく、今後の学校建築のモデルになると思います。今後長きにわたり、南中生を見守り続けていく新校舎です。新しい白亜の学び舎として、卒業生や地域の方々に愛され続けていくことでしょう。

(文責・小島 広明)



光り輝く新しい学び舎の完成予想図

教育随想 (78)

以前、『地震・雷・火事・親父』と言えば、この世の恐ろしいものの代表であった。親父が「駄目だ！」と言えば、天変地異が起ころうとも駄目である。自分の考えが間違っているように、がんとして変えようとしないう頑なな親父。

そのくせ、愛娘の嫁入りにはひそかに涙を流すが、人の前では少しも寂しくなどないように振舞うやせ我慢の親父。どことなく憎みきれない人間味あふれる頑固親父。こんな父親像を期待する時代ではないことは承知している。今、物わかりがよく、子供の言葉を鵜呑みにし、子供の行為をすべて肯定する親の姿がある。あるいは、親の威厳が失われ、子供の勢いに押されて、子に言われるがままになっっている親の姿がある。なぜかこうして子供への愛情のあり方が釈然としない。さて、現代の学校教育には多くの課題があり、またあまたの批判が寄せられる。今、小中学校の運動会や体育大会で行われている組立体操の「ピラミッド」や「タワー」が危険だと問題視される。子供たちの安全や健康が最優先されるべきはずなのに、教師たちは平気で子供たちを危

険な状況に追いやっていると批判される。そんなことは断じてない。教師は、子供たちの安全を第一に考えている。だからこそ、組立体操を行う場合など多くの教員で補助を行い、慎重に段階を踏んで練習を重ねている。子供の安全を軽視している教師など一人もいないに決まっている。教師は、行事を行う中で、子供たち

頑固親父



岡崎市教育委員会 教育長

高橋 淳

で苦悩する教師の姿がある。さらに、教員の多忙化が大きな問題となっている。しかし、日本の教育が培ってきた人格形成を含めた教育こそが、日本人の秩序正しさや高度経済成長を支えてきたと信じている。信念を持ちながら、教師たちは、子供たち一人一人に寄り添った教育の実践を行ってきた。その教育を突き詰めていけばいく

の達成感や充実感が大きな感動を引き起こし、その感動の連続性が子供たちを精神的に大きく飛躍させることを知っている。そうした経験を通して子供たちを成長させてきたという自負がある。難しい演技に挑みたいと懇願する子供たちの思いを大切にしながら人間としての成長を願う。その願いと怪我の危険性との狭間

ほど、多忙化は推進されるのである。頑固かもしれないが、そこには人間を育てるプロとしての誇りがある。確かに教育界には批判される要素があり、旧来の頑固さがあるかもしれない。しかし、子供たちの逞しい成長を考えない頑固さではない。教師が真剣に子供たち一人一人の成長を思い、幸福を願っている頑固さである。安易な物わかれるのは、やや勇み足ではあるまいか。子供たちにはそれぞれ個性があり、その生活環境がある。だから、数え切れないほどの教育のあり方や方法を考えなくてはならない。そこには多くの苦悩が生まれるのである。頑固親父の頭にも数えきれない苦悩があり、その苦悩の果てに教育の道があることを理解してほしいと願う。

編集後記

ここに平成二十七年年度の最終号をお届けいたします。この一年間、玉稿をお寄せいただきました皆様には、心よりお礼申し上げます。また、「教育みかわ」を愛読くださいました皆様、ありがとうございます。

今年の干支「申」には、生命力が盛んで、どんどん成長してゆくという意味があるといえます。三河の子どもたちの確かな成長を願い、これからも先生方の教育実践にお役に立てる広報誌をめざし、誌面の充実にご努めてまいります。今後とも、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いたします。

表紙の写真

「元氣いっぱい！持久走大会」撮影 田原市立衣笠小学校 青木 文代 先生

カット

愛知教育大学附属特別支援学校 杉浦 直樹 先生

◆平成27年度各部会・委員会刊行研究集録

社会科の現代像を求めて(28) 平成27年度研究紀要 第37集 平成27年度体育研究集録 小 研究集録 第33集 中 研究集録 第42集

英 語 2015英語教育研究集録 第55号

道 徳 道徳教育研究集録No.34

特別活動 学級づくり これだけは！

特別支援教育 一人一人の教育的ニーズに応じた教育のあり方をめざして

養護教諭 平成27年度研究集録

学校図書館 学校図書館研究紀要No.57

統計教育 愛知の統計教育 第34号

へき地教育 愛知県へき地教育研究シリーズ39集